

※ 評価基準：5(達成できた) 4(概ね達成できた) 2(あまり達成できなかった) 1(達成できなかった)

領域 (スクール・ポリシー)	① 基本的な生活習慣と規範意識を確立するとともに、他者と協働する力を育む。 ② 自らの進路を自己実現に向けて、主体的に学ぶ態度を身に付ける。 ③ 社会の変化に対応して、自ら判断し、行動することができる力を育成する。 ④ 命や人権を尊重し、自他共に大にたつ態度を育てる。 ⑤ 生徒の内心理解に努め、生徒の心に寄り添う。教育相談や生活指導に取り組む。 ⑥ 対話を重視した少人数指導により、基礎・基本を定着させる学びを展開する。 ⑦ ICT 機器の活用と授業のユニバーサルデザイン化に取り組む。『誰もが分かる』授業を行う。 ⑧ 職場や学校外見・就業体験などの体験活動を重視し、体系的なキャリア教育を推進する。 ⑨ 教科横断的・総合的な学びを推進して、協働的な課題解決の方法を身に付ける。
-------------------	--

分掌	NO	領域	評価項目・達成目標	評価指標(具体的な達成目標)	評価指標に対する成果	評価平均	評価	課題・改善の方策等
総務	1	④⑤⑦	生徒にとってよりよい学びのある行事の精選・改良に取り組み、内容の充実をはかる。	各行事後に、生徒のアンケートを適宜実施し、肯定的な意見が全体の8割以上になることを目指す。	肯定的な意見が9割を超えるものもあったが、内容が高度なものについては、よく理解できている生徒が5割程度のももあった。講演では生徒の新たな知見が呼び起され、地域清掃や地域貢献などの実習的な活動では多くの生徒が意欲的に行動できた。今後も学校や生徒の現況を意識しつつ、行事前又は事後の学習の機会に努め、多様な生徒を有する状況下で、全ての生徒にとって有益な行事運営に努める必要がある。	3.8	B	今年度の評価を踏まえ、領域を見直すことも検討するとともに、今後一層、地域の諸機関との連携を深め、生徒にとって有益となる学びの機会を提供できるよう努めていく。内容によっては、事前に学習を行うなど、生徒の理解促進を図りたい。
教務	2	②⑦	生徒の主体性を高めるための「わかりやすい授業」づくりの促進に向け公開授業期間を設定し、教員全体の指導力の向上を図る。	公開授業後の生徒アンケートにおける「授業に主体的に取り組んだ」、「授業の内容はわかりやすい」の項目と、教職員アンケートにおける「公開授業の取り組みが授業づくりに役立った」の項目それぞれにおいて肯定的な意見が全体の80%以上となった。	※「そう思う」・「どちらかというと思う」と答えた生徒の割合 ・授業に「主体的に取り組んだ」…93% ・授業の内容は「わかりやすい」…90% (公開授業後の教員アンケート結果) ※「そう思う」・「どちらかというと思う」と答えた教員の割合 ・授業の「内容がわかりやすい」…91% ・「わかりやすい授業」の取り組みが「授業づくりに役立った」…90%	4.1	A	来年度は公開授業の実施時期を2学期前半に早め、そこで得た知見や技能をその後の授業実践に生かせるようにする。内容についてもなるべく多くの授業を公開・参観できるように設定する。また他の学校での授業実践例など、授業に活用できる情報の共有を充実させる。
生徒支援	3	①⑤	校則に基づいて、全職員で一貫した生徒指導を行い、基本的な生活習慣を確立させる。	学校生活のきまりの周知の徹底。生徒情報交換を毎日行い、内面理解に努める。また、毎日立ち番指導を行い、生徒の心身の状況把握を行う。また、学校生活アンケートや校則に基づき、人権侵害に関する問題行動0件を目指す。	校則(校則等)や立ち番の指導で、生徒の内面理解が深まり、生徒の生活習慣が定着した。また、立ち番の指導により、生徒の内面理解が深まり、生徒の生活習慣が定着した。また、立ち番の指導により、生徒の内面理解が深まり、生徒の生活習慣が定着した。	4.5	A	生徒指導規定にはない、細かい規定に対する全職員の共通理解と生徒の情報共有のレベルをあげ、生徒の小さな変化にそれぞれが敏感に反応し、対応できるようにしたい。また、いじめ対応マニュアルに基づき、いじめの認知について4月当初に職員の共通理解を徹底したい。4月より、服装の規定が変更になるので、生徒一人一人が安心して学習に取り組めるように、職員一同が連携を強め対応していきたい。
	4	①⑤	心身の健康問題の改善に向けた指導の充実を図る。	要受診者(定期健康診断結果)に対する受診率の向上について、保健だより等による啓発や個別指導、保護者との連携を図る。また、メンタルヘルス講習会や歯科、性教育講演会などを通じて健康への関心を高める。	要受診者に対する受診率の向上については、保健だよりによる啓発や未受診生徒への受診状況に関するアンケートの実施、個別指導等を行ったが、保護者との連携については十分な取組みが出来ず課題が残った。毎月の教育相談では、全校生のカウンセラーとの面談、メンタルヘルス講習会、歯科、性教育講演会を実施し、心身の健康への関心を高める機会を持つことができた。	4.1	A	要受診者に対する受診率の向上については、生徒一人一人に寄り添った定期的な声掛けによる受診の勧めや、今年度同様クラスルームを利用してアンケートの実施、受診勧告書に添付の資料作成等を行う。また、生徒だけでなく保護者に対しても、保護者面談の機会や下校時等、保護者への声掛けの機会を持ち、繰り返し丁寧な説明を行っていく。
キャリア支援	5	②⑧	全ての生徒が希望の進路を実現できるよう、個別指導や情報提供に注力する。	卒業生や前年度までにインターンシップやオープンキャンパスへの参加を促し、個々の希望や適性に合わせた進路選択ができるようとする。生徒アンケートの「本校の進路指導に満足しているか」という項目で、「そう思う」という回答が80%以上になることを目指す。	インターンシップには3年生2名、2年生5名が参加。オープンキャンパスには3年生2名が参加し、それぞれ進路選択に向けて見聞を広めた。卒業生の生徒6名も、それぞれが希望する進路をおもね実現できた。左記のアンケートについては、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせて88.5%となった。今後も個々の適性や希望に応じて、きめ細かいキャリア支援を実施したい。	4.6	A	生徒の個性や適性に応じて、ハローワークや自治体の関係機関、地域の事業所との密な連携をとることに努め、職場見学やインターンシップのより計画的な実施を目指す。また学年HRIにおいて進路指導の機会をあらかじめ計画し、学年・時期に応じて体系的にキャリア教育を行えるようにしたい。
4年	6	①③⑧	卒業後、社会的・経済的に自立した生活を送れるようにする。	目標達成シートを用い、自ら決めた項目に対して、達成できていたかどうか振り返りを行う。学期末にお互いのいいところを見つけ、伝え合う。	目標達成シートを意識しているが、月に一度声掛けをすることで、約半数の生徒が学期末の振り返りで達成することができた。また、学期末にありがたカードを作成し、お互いのいいところ伝え合う機会を設けた。2年生の頃から実施しており、生徒は習慣化する中でも、相手に感謝を伝えながらカードを渡すことができた。	4.7	A	お互いの良いところを見つけ、感謝を伝え合うことは自己有用感の向上につながり、クラスとしての一体感をより強めることができた。しかしながら、個人の将来に向けての取り組みに対する意識が個人差がかなりあったので、キャリア支援部のガイダンスとHRで連携して意識を高める取り組みを充実させることが必要だと感じた。
3年	7	①②③⑤	自分の進路について自分と向き合い、社会人として自覚するための力をつけるとともに、相手の立場や気持ちを思いやり、他者と良好な関係を築けるようにする。	個々の自分自身の課題を見つかけさせ、学期末にどれだけ達成できたか、振り返りを行う。行事や国語の行事において、お互いに協力し助け合う心を養う。宿泊行事を通じて、集団行動や思いやりの心を育む。	修学旅行や定時制祭などの行事を通して、仲間との交流を深めることができた。普段あまり話さない仲間であっても、日直の仕事を手伝ったり、行事の役割を協力して果たしたりなど、お互いの気遣い場面が多々見られた。また、自身の進路について、オープンキャンパスの機会を活用したり、インターンシップをしたりするなど、真摯に向き合う姿勢が見られた。	4.2	A	SHRや授業に遅刻をする生徒がなかなか減らなかったことが一番の課題である。授業についても、前向きに取り組んではいるものの、周りの話し声がうるさいと感じる生徒もあり、全ての生徒が落着いて学べるよう、規律を守ることを徹底していきたい。周りに流れやすい生徒もいる一方、他人に頼ることができない生徒もあり、課題は様々であるが、卒業後、自立した社会生活を送れるよう個々に応じたサポートをしていきたい。
2年	8	①②⑧	主体的に行事や学習に取り組む中で自己と他者を大切にする姿勢を醸成する。企業見学などの機会を通して卒業後の進路についてのイメージを具体化させる。	各学期に学校生活や普段の生活についての目標決めと振り返りを行う。生徒自身が立てた目標が達成できるようにサポートを行うことにより、全ての生徒がいずれかの項目で肯定的な自己評価をつけることを目指す。	全体として学校行事や授業に楽しみながら取り組む雰囲気が出てきた。学期末の振り返りでは、すべての生徒がいずれかの項目において肯定的な自己評価をつけることができた。それぞれの目標を達成するために生徒同士で協力したり、他者を助けようとする姿が見られた。また、進路指導部より説明会やインターンシップの機会を拡充してもらったことで、進路のイメージを深めている様子が見えかけた。	4.3	A	学期の目標を設定させる際に、目標の立て方が妥当であるかを意識させることで、振り返りをより実のあるものにしていきたい。3年生・4年生に関わらず、進路実現に向けて前向きに取り組めるようはたらきかけを行っていく。
1年	9	④⑤	学校生活を送る上での基本的な生活習慣を身につけるとともに、自己肯定感や他者への思いやりといった精神面での成長を促す。	目標達成シートを活用し、目標決めと振り返りを行う。生徒自身が立てた目標が達成できるようにサポートを行うことにより、全ての生徒がいずれかの項目で肯定的な自己評価をつけることを目指す。	学期ごと目標達成シートの記入と振り返りを繰り返し、個人としてだけでなく集団としても成長できるよう声かけと指導に努めた。中学校にあまり通ってなかった生徒も、進級を目指す中で出席日数や成績の規定を意識することができるようになった結果、体調を崩す生徒が減少した。また精神面においても、まだまだ課題は多いものの、他者を思いやりたり自分を振り返ったりする言動が増え、成長していることがうかがえる。	4.2	A	「単位修得(進級)のためには出席・成績の条件を満たさなければならない」という、義務教育との違いや、学校生活におけるルールやマナーを、2年次生になることをきっかけに徹底して意識させたい。目標設定シートの活用も継続し、よりよい集団や人間関係をつくるための工夫に努めたい。3修制の生徒にはオープンキャンパスや個別補習の機会を設け、進路実現に向けて行動させる。